

「曾利遺跡」発掘調査の思い出語る

井戸尻考古館 50周年記念講演会

富士見町の井戸尻考古館は建館50周年記念日の4月30日夜、同館用地になった「曾利遺跡」の当時の発掘調査に参

加した2人を招いた講演会を同館で開いた。周年記念イベントの一環。実際に調査を行った思い出を語った。

考古学を愛好した地元住民の熱意で1974（昭和49）

年4月30日に開館した井戸尻考古館。現在、貴重な土器や土偶、曾利遺跡発掘時の調査

報告書や各種図面などの資料を初公開するミニ企画展「井戸尻考古館ができるまで」を開催中で、講演会は50周年記念を告げるイベントとなった。

諏訪地域に根差した歴史文化を研究する一般社団法人大昔調査会の、高見俊樹さんと三上徹也さんが講演。

2人とも調査当



曾利遺跡の発掘調査の思い出などを語る高見俊樹さんと三上徹也さん

時は諏訪清陵高校（諏訪市）に在学中で、地歴部に所属していたため参加した。卒業後は文化財関連の仕事に就いたといい、原点は曾利遺跡での調査活動だという。「遺跡に

掛ける情熱と井戸尻考古館の存在が、人生に大きく影響した」と話した。

会場には大勢の地域住民らに参加した。同館のミニ企画展は6月30日まで開催する。